



発行所 鳥城会事務局 TEL 03 (3668) 2111
編集・印刷所 はんこ広場日本橋店 TEL 03 (5651) 2088

総会報告 伝統を継ぎ西高が主役に 百人超える参加者が懇親深める

平成19年度鳥城会総会は、11月10日(土)に東京JR市ヶ谷駅そばのアルカディア市ヶ谷(私学会館)において開催されました。西高からは河田透教頭と美田康彦教諭にお越しいただき、来賓の田村明敏様(鳥取県東京事務所長)をお迎えして、総勢一〇〇名を超える会員の参加を得て盛大に行われました。出席者の大半を西高OBが占め、旧鳥取一中の歴史と伝統のもとに生まれた鳥城会も、名実ともに活動の主体を西高が担う会になりました。



恒例の鏡割り

総会では中野純会長のご挨拶に引き続き、林田達郎事務局長兼副会長から平成19年度の活動・会計報告があり承認されました。

ループごとに記念撮影(3面に写真)を行い、写真は閉会時に当番幹事22期(昭和46年卒業)の記念品(一中、西高の校章入りの「牛革携帯ストラップ」)と合わせてお配りしました。懇親会は鏡割(青谷・西谷酒造の「美人長」)の後、最年長の大村文夫様(一中44期)の乾杯のご発声で始まり、河田教頭から「まず河田教頭からご祝辞を頂戴し、合わせて西高の近況報告(改築計画等)を頂きました。続いて来賓の田村様よりご祝辞

を頂戴いたしました。ご歓談のあとアトラクション(落語家の桂幸丸師匠の創作落語)で大いに盛り上がった所で恒例の抽選会となりました。22期の幹事団を中心に鳥取在住ならびに在京の同期のご協力を得て、多数ご提供頂きました。抽選会最後の賞品は、同期で画家の有田巧、岸本章、中谷晃3氏の「色紙」「絵画」となり会場は最高潮に達しました。ご提供頂きました同期の皆様(紙面の都合でお名前を省きます) (西高22期 山崎恒樹)

鳥城会の拡充・発展に 皆様の積極参加を

平成20年も5月を迎え、青葉が眼にしみる過ごしやす季節になりました。例年この季節は鳥城会会報の発行の季節でもあります。この会報でご案内の通り、毎年11月に開催されます年次総会、懇親会はこの数年当番幹事の奮闘により一〇〇人以上の参加を得て、大変活況を呈しています。単に参加者の多さだけでなく、趣向をこらした参加者にご満足頂けるイベントも楽しみのひとつになりました。これを支えていますのが、女性会員の参加者の多さです。5年ほど前の総会は、女性会員の参加者が少なかつたものですが、この数年の総会は、華やかに進んでまいりました。司会進行、幹事団の主要メンバーなど女性会員抜きでは盛り上がりには欠けるようになってきました。

こうした環境を捉えて、幹事団から新しい提案をしていく所存ですので、各種の積極的な参加をお願いいたします。鳥城会の発展と地元鳥取の繁栄に共に参加をいたしましょう。6月以降に新企画を提案いたしますので、奮ってご参加、特に女性会員のご参加を期待しています。(副会長・幹事団 18期 山田雅行)

吉田政雄氏(西高18期)

古河電工社長に内定



鳥城会副会長の吉田政雄氏(西高18期)が今年4月、古河電気工業社長に内定されました。鳥城会にとつて嬉しいニュースです。

吉田氏は西高から東大経済学部に進み卒業後、古河電工に入社しています。入社当時傍流だった発泡ポリエチレン事業部の営業から会

社員生活をスタートしました。当時、吉田氏はサンプルのお風呂マットを持って、問屋回りのドブ板営業で東奔西走の毎日を送ったという話もあります。この数年間、同社の社内後継レースは吉田氏が独走していたわけではなく、複数候補者の一人でありましたが、社内外での「吉田政雄待望論」が当初から強く、そういう意味では同氏の社長内定は「本命の本命」といえます。(電線新聞より抜粋)

平成十九年度総会出席者 (敬称略)

◎来賓 河田 透鳥取西高教頭、美田康彦総務部長(西高27期)、田村明敏鳥取県東京事務所長、山下篤生鳥取県東京事務所員

◎会員 (鳥取一中)▽44期・大村文夫▽61期・浅尾 弘、中野 純、横山 豊、松田信徳

▽62期Ⅱ西高1期・橋本邦雄、原 桃介

(鳥取西高)▽5期・林田達郎、三浦三郎▽6期・尾崎 明、竹中美津江▽9期・久米 澤喜一郎、守屋正教、山下和明▽11期・神谷昭光▽12期・清末直行

▽13期・篠田伸夫、片岡美保子、井畔裕子、富野守見子、米濱和英▽14期・柳田皓一

▽15期・中川浩明、三角幸子▽17期・清水 博、藤岡政雄、森中章雄▽18期・森田祐 理、山田雅行、横山幹雄▽19期・松尾秀雄、山本恵美子、米田道夫▽20期・角谷敏朗

米田 純、飯田美夜子、石谷達夫、江村 寛、榎本えり子、岡崎 健、渋谷三郎、西 尾啓一、矢木一雄、山根かおる、園井 泉▽21期・小川恵三、福山登志彦、石田順子、 上山紀夫、真田純子、新井裕子、鶴田健司、山脇彰子、松原典子▽22期・矢野麗子、 浜本義之、難波和子、岩田潤一、建石哲也、広田雅夫、中谷 晃、浜口仁司、福山登 志彦、下田一弘、中島孝俊、山崎恒樹、山根恵子、田辺敏矩、山西伸彦、石井達也、 森原洋二、山根大作、大谷泰昭、増田百合子、難波隆司、山岡行雄、石川 史、美野 佐代子、安住真知子、村田佳枝、田口和弘、平賀法子▽23期・永美和憲、高木誠一、 武田祐孝、寺谷正二郎、竹田 稔、小長井賀興▽24期・山根伸吾▽26期・岡本貞恵

▽34期・ウーひとみ

(鳥取高女)▽昭和14年卒・岡本雪江

欠席された方々の近況など

総会を欠席された方々のうち、連絡ハガキの通信欄に近況などが書き込んであるものを選びました。なお、昨年10月時点の便りであることをご承知おき下さい。(敬称略)

(鳥取一中)

安陪惟則(40期)年齢96歳以上ですので、出席できません。

石谷類造(46期)10月で91歳になります。足が弱くなっており、

杉村公美(55期)88歳のお祝いを受けてから後期高齢者の気分です。

高嶋義弘(51期)足が悪く出席できません。青柳義久(53期)健康不調です。

中本誠一郎(54期)胃癌の開腹手術後、体調に気を使っている毎日です。

猪口高明(55期)大正14年生まれば、本年生誕3万日を迎えます。

安木 茂(55期)足が悪く歩けませんので

欠席します。

阪田義明(55期)なつかしく会報を読ませていただきました。

伊藤 滋(56期)病氣治療中です。

岡田 明(56期)クラス会出席のため60年ぶりに訪鳥しました。昔住んでいた上町の家の斜め向いに石破防衛相の家が建ち、奥様と写真を撮りました。

山根通裕(56期)80歳を越えましたが、元気に働いています。

藤原謙二(56期)80歳前後から病氣が次々と発症し治療中です。

美田 孝(56期)沖縄で戦死した父の最期の地を判明したので、昨秋沖縄へ慰霊の旅をしました。

佐合 奨(56期)体力の低下を実感しています。

高橋昭治(56期)東京の俳句仲間と鳥取砂丘へ出かけ、「満月の一会先師の大砂丘」をいただいた。

三谷信実(57期)80歳を迎えましたが、し

ばらくダンスを楽しみます。

倉田一明(57期)今夏「朝日新聞と高校野球展」を訪れ、鳥取中鹿田投手の写真パネルと鳥取中の選手が使用したグラブとミットの展示品に久松山下に思いを馳せました。

小林 精(58期)体調不良のため治療しています。

倉信隆弘(58期)家に居ることが多いので毎日最低15分以上の散歩をするように心掛けています。

川口義男(58期)地域の老人クラブの運営をやるようになり忙しくなりました。

田中達三(58期)元気にやっています。

稲富道治(60期)健康に恵まれほぼ現役時代と同様の第二の人生を送っています。

三木龍夫(60期)歳相応にあちこち手当てをしながら無事に過ごしています。

山本雄二郎(61期)大学教授も引退し水彩画と俳句などで余生を楽しんでいます。

花木充夫(61期)肝臓不調につきしばらく自重しています。

野津昭人(62期)西高1期)故障が多く困っています。

平澤尚實(63期)西高2期)病氣と闘いながら元気にやっています。

福谷 實(63期)西高2期)吟詠の練習日なので欠席します。

牧野和春(64期)西高3期)「古木の物語」(工作舎刊)を発行。

三田耕治(64期)西高3期)地域活動のボランティアを始め元気に過ごしています。

村江久忠(64期)西高3期)土曜日も現役で仕事をしています。

鬼 泰照(64期)西高3期)病院に入っています。

(鳥取西高)

西田俊夫(西高4期)昨年、今年の2年間

は同期会(関東)の「風紋会」の幹事をやっています。

美多賀鼻一成(西高5期)4月より鳥取市民になり東京と鳥取の往復です。

北村孝行(西高5期)日々ノンビリ暮らしています。

岩田 穹(西高5期)土曜日は欠かせない受講があるため欠席します。

田中文雄(西高5期)日常的には健康に恵まれ元気にやっています。

植田昌明(西高5期)JICA・つくばで海外研修生に農業・農村開発・灌漑・排水を講義しています。

中田和夫(西高5期)日本弘道会のシンポジウムのため欠席します。

毛利 彰(西高5期)東京の病院から鳥取の病院へ転院し少しづつ快方に向っています。(注)最後の便りとなりました)

上山哲郎(西高5期)自治会長、ゴルフは現役です。

田中 勉(西高5期)元気で暮らしています。

岡田 栄(西高5期)横浜で元気に過ごしています。

伊東祐英(西高5期)何とか元気で過ごしています。

永田 昇(西高9期)昨年、不慮の事故により頸椎損傷による四肢麻痺となり闘病生活を送っております。

篠田英男(西高9期)相変わらず女子短大生に囲まれ!人に羨ましがられながらマンガを教えています。

福田典高(西高9期)9/29/11/29鳥取市歴史博物館(やまびこ館)で「殿ダム展」に参加しました。大勢のお客様で賑わいました。

岸田道則(西高9期)横浜の「みなとみらい線」に元気で勤めています。

岡本昇太郎(西高10期)洞爺湖サミット! 釧路郷土人移住、道立高校採用登録者であった時を回想しています。

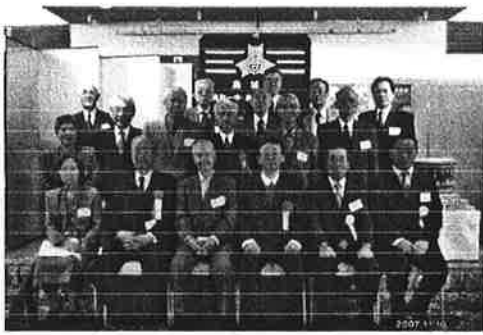
平尾千秋(西高10期)大手術後未だ体力の回復が十分といえず食生活には要注意です。

川上壽一(西高10期)酒類卸売会社の常勤

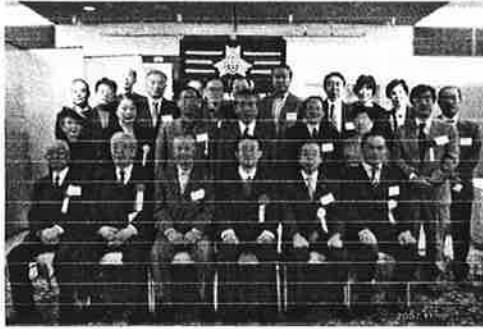
監査役で毎日何とか元気にやっています。

山田歌子(西高11期)自律神経失調症のため調子が悪く欠席いたします。

尾崎捷三(西高11期)妻と猫2匹、雀千羽と生活しています。



旧一中・高女のみなさん



西高1期～21期のみなさん



西高22期のみなさん



西高23期以降のみなさん

稲垣昭久(西高14期) 来年3月末をもって引退の予定です。
 村上秀男(西高16期) 昨年4月より大阪へ単身赴任です。
 米井 改(西高16期) 病氣治療中につき参加できません。
 岡田一郎(西高16期) 11月10日は40年卒在京者の同窓会があり幹事ですので出席できません。
 稲垣昭久(西高14期) 来年3月末をもって引退の予定です。
 小林陽子(西高14期) 孫が3人になり子守り、楽しみのゴルフと元気に過ごしています。
 中島憲太郎(西高17期) 土曜日は青少年の柔道指導を行っているため欠席します。
 田村耕一(雅昭)(西高17期) 11月中は文化庁演劇公演に出演中なので欠席します。
 太田愛子(西高17期) 仕事、家庭と多忙な日々を送っています。
 岸田明子(西高18期) 母の介護で東京・鳥取を行ったり来たりしています。11月より帰省中です。
 小林秀晴(西高18期) 元気にやっています。
 安富久雄(西高18期) 上京以来一度も出席しないまま定年を迎えようとしています。何とか健康で37年間同じ会社に籍

を置かしてもらいました。いつか出席できる日を楽しみにしています。
 小島憲道(西高19期) 11月10日は東大一三〇年記念式典があり、そちらに出席します。
 松島俊郎(西高19期) 現在勤務地が兵庫なので欠席します。
 本山由美子(西高19期) 9月に鳥取に帰りましたが、海、空、山、砂丘がともきれいでした。
 風間和江(西高19期) 孫のことでまごまごしている今日この頃です。おかげさまで健康に恵まれ旅を楽しんでいます。人生の旅も家族を大切に充実した生活を送れたらと願っております。
 戸崎博己(西高20期) 自営の特許調査請負をベースに同居の母の通院送迎、ロードサイクリング、テニス等で日々過ごしています。
 阪下哲寛(西高20期) 6月に菱進クレジツトサービズ(株)を退社しホーチキ(株)の常勤監査役に就任しました。
 赤松幹男(西高21期) 1人娘が今春から社人になりました。巣立ちした思いです。妻との二人三脚これからも楽しみです。
 木下雅子(西高21期) 母が高齢のため、東

京と鳥取を行き来しています。
 谷口文夫(西高21期) 今後、欧州出張が頻発しそうで困っています。
 森 昌行(西高22期) 映画製作の準備に入ります。
 平井敏郎(西高22期) 富山に赴任して一年になりますが、東京では忘れられた季節の移り変わりを身近に感じるが多くなりました。
計報
 毛利 彰(西高5期) 20年4月9日ご逝去
 毛利氏は高校在学中から一水会に入選するなど当時から才能の一端を披露。日本宣伝美術界に重きをなし、イラストレーターとして独特の境地を拓いていた。
 『一年前、鳥取市に帰り、病氣療養中だった。毛利さんを知る地元の関係者は大きな足跡を残した毛利さんの人柄と画業をしのんだ。(日本海新聞より)』
関連組織の人事
 西高
 新校長 原田純一(西高22期) 岩美校長より異動
 東京都本部(前東京都事務所)
 本部長 川口正男(県土整備次長より)
 副本部長 白石祐治(商工労働部より)

平成18年度決算報告(概要)

収入の部	支出の部		
年会費 545,000	総会費 880,452		
総会費 757,500	名簿発行発送費 0		
受取利息 2,580	通信費 0		
広告費 0	慶弔費 49,700		
寄附金 463,000	事務用品費 0		
雑収入 0	役員会・幹事会等費 222,150		
	レクレーション補助費 0		
	会報発行費 365,726		
	事務局費用 58,573		
	諸手数料等雑費 0		
	予備費 0		
-----	-----		
収入計 1,768,080	支出計 1,576,601		
前期より繰越金 437,213			
合計 2,205,293			
(注:単位=円、会報発行費には郵送料などを含む)	次期への繰越金 628,692		
	合計 2,205,293		

平成19年度予算(概要)

収入の部	支出の部		
年会費 700,000	総会費 850,000		
総会費 600,000	名簿発行発送費 0		
受取利息 5,000	通信費 20,000		
広告費 40,000	慶弔費 50,000		
寄附金 350,000	事務用品費 30,000		
雑収入 5,000	役員会・幹事会等費 200,000		
	レクレーション補助費 200,000		
	会報発行費 300,000		
	事務局費用 100,000		
	諸手数料等雑費 50,000		
	予備費 100,000		
-----	-----		
収入計 1,700,000	支出計 1,900,000		
前期より繰越金 628,692			
合計 2,328,692			
(注:単位=円、会報発行費には郵送料などを含む)	次期への繰越金 428,692		
	合計 2,328,692		

湘南の秋を満喫

茅ヶ崎の史跡を巡る

10月8日、体育の日。前日の天気予報では、台風の影響で茅ヶ崎は大変な悪天候の由。心配しながら朝を迎えたが、どうも左程心配はなさそう。こうなると、一体何人ぐらいの参加があるのか、そのことの方が心配になつてくる。

茅ヶ崎駅北口でバスに乗り190円、八幡神社前に降り立つた一行は9人の黒い集団だった。女性の参加はなし。いきなり急な階段が一行を迎えた。しかし、後はほぼ平坦な道。雨にも降られず、時

乗る。ボタンを押さないとドアが開かないローカル電車が嬉しい。茅ヶ崎駅に着いて予定を変更。3組に分かれ、タクシーで開高健記念館に赴く。残された時間と途中での天候悪化を勘案しての林田事務局長の大英断(？)。見学料は無料。しかも、館員は大変親切。暫く文学的雰囲気には浸った。この後は、湘南の海を左に眺めながら国木田独歩の碑のある公園まで砂丘を散策。独歩は、茅ヶ崎の南湖院なる



旧和田家住宅前にて



開高 健記念館

サナトリウムで結核のため37歳で死亡。合掌。さて、この後、目指すは茅ヶ崎館のみ。左右に広大なお屋敷を眺めながら静かな佇まいの茅ヶ崎館に無事到着。15人の予約をドタキャンしたにも拘わらず、材料が使えるからと大変まけてくれる。さすが、老舗。美しい庭に面した座敷にはテーブルと椅子。

美味い海の幸とお酒で歓談に耽ったのは言うまでもない。最後に、小津安二郎監督が名作「東京物語」の脚本を書いた「二番」の部屋を見学。案外に小さい。期待した原節子が泊まった「三番」の部屋はお客様室のため断られ、一同、残念。(副会長・レク担当 篠田伸夫)

伝統と先取の精神

同窓会会長(鳥取ガス取締役社長) 児島 祥悟



鳥取県立西高校の同窓会会長の重責を引き受けてから、一年余りを経過した。そのわずかな間に日本の政局は大きく変わり、先行きもまったく読めない状況である。「ねじれ国会」などというが、それを歎く人もいれば、戦後

鳥取一中から西高校に至るわが母校は、「知・徳・体」の調和を目指す校風をもち、長い伝統の歴史を誇っている。その間に戦争、自然災害、大火もあり、戦中戦後を通して私たちの思想も大きく揺れ動いた。

私たちの誇るべき先輩で、忘れてならない人がいる。法律学者、佐々木惣一(一八七八—一九六五)である。

一九三三(昭和八)年、京都帝大でいわゆる「滝川事件」が起きた。滝川教授はトルストイの人道主義にたつ刑法観を講義し、著書『刑法読本』でも自らの信念を表明していた。軍部が急速に台頭する

時代。教授はたちまち文部省から「国体に反する」と批判され、休職処分を言い渡された。学問と政治の対立を象徴する事件として有名だが、これをモデルにしたのが黒澤明監督の名作『わが青春に悔いなし』である。

この時、「学問の自由と大学の自治」を守るために、悲壮な決意で立ち上がったのが母校出身の佐々木惣一らであった。教授も学生も一丸となった抗議運動のすえ、やがて国家権力の前に分断されて、佐々木ら七人は大学を追われてしまう。しかし翌年、佐々木は立命館大学長に迎えられた。戦後は憲法改正調査にあたり、民主国家建設のために『佐々木憲法草案』を作成している。佐々木の生き方そのものが、「自由と改正」を貫く生涯であった。ここに私たちは「伝統」を大切にし、改革を目指す「先取」の精神が矛盾しないことを学ぶのである。

いま、学問、政治、経済はどうであろうか。時代錯誤のイデオロギーやナショナリズムが横行し、利潤追求のためにはなかり構わない戦略がまかり通る。少なくとも母校は伝統を取り違えないよう、母校再建計画も「百年の大計」に立ち、先輩後輩もこの身を戒めたいものである。

今年の総会、

11月8日を予定

平成20年度鳥城会

総会は、11月8日(土)正午から昨年と同じ東京・市ヶ谷のアルカディア市ヶ谷で開くことを決め、準備してあります。いろいろ趣向をこらしてお待ちいたします。一人でも多く

会費納入のお願い

皆様からの会費が鳥城会の活動を支えています。おかげ様で、総会、会報の発行も順調に進んでいます。同封の郵便振替紙

平成20年度会費(ただし80歳以上は免除)及びご寄付も合わせて納入していただくようお願い申し上げます。(事務局)